

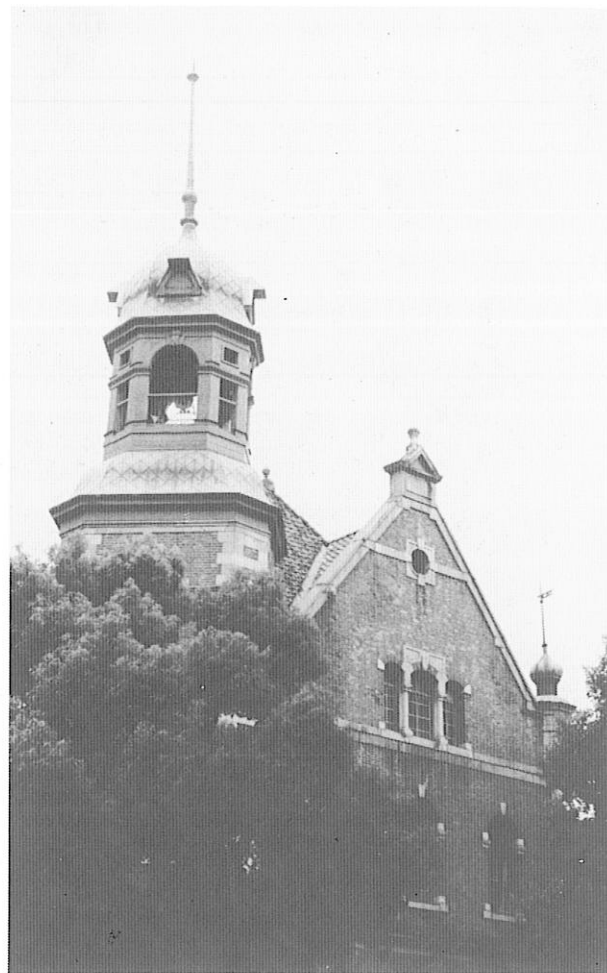
DOSHISHA GLEE CLUB 83rd ANNUAL CONCERT

*With every good wishes for a
Merry Christmas
and A Happy New Year !
(from Doshisha Glee Club)*





Campus in TANABE



Campus in IMADEGAWA

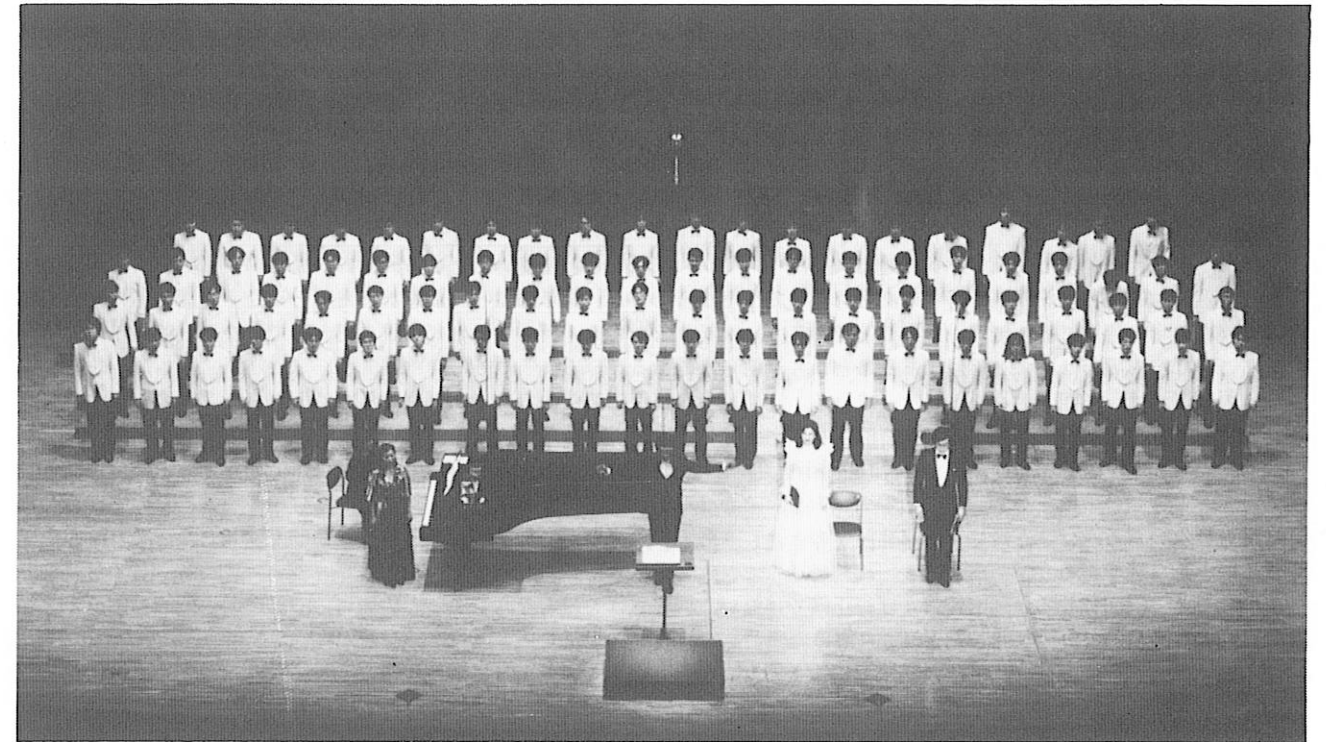
DOSHISHA COLLEGE SONG

One purpose, Doshisha, thy name
 Doth signify one lofty aim;
 To train thy sons in heart and hand
 To live for God and Native Land.
 Dear Alma Mater, sons of thine
 Shall be as branches to the vine;
 Tho' through the world we wander far and wide,
 Still in our hearts thy precepts shall abide!

Still broader than our land of birth,
 We've learned the oneness of our Earth;
 Still higher than self-love we find
 The love and service of mankind.
 Dear Alma Master, sons of thine
 Would strive to live the life divine;
 That we may with increasing years have stood
 For God, for Doshisha, and Brotherhood!

第83回 同志社グリークラブ定期演奏会

1987.12.19 (Sat)
 ザ・シンフォニーホール



御挨拶

本日は、お忙しいところ、私達同志社グリークラブ第83回定期演奏会にお越しくださいませ、誠にありがとうございます。

田辺移転2年目を向かえたこの一年間、あらゆる方向から今の現状を改善していこうと、議論を繰り返してまいりました。

それは、学生のクラブ活動という枠組の中で、少しでも自分達の理想に近づけることが出来たら、という思いからでした。

そして、この理想を追い求める姿勢こそ、アマチュアである私達、学生合唱団の特権なのではないのでしょうか。

今宵、私達の歌声によって私達と皆様との間に、誰をも踏み込むことの出来ない感動の世界を創り出私達の1人1人のメッセージを皆様が確かに受け取っていただけたなら、この上ない幸せであります。

最後になりましたが、未熟な私達を熱心にご指導くださった諸先生方、いつも心のこもった助言によって、私達を勇気づけてくださった諸先輩方、この演奏会を開催するにあたって御協力を頂きました、関係各位に部員を代表して厚く御礼申し上げます。

幹事長 栃木 義博

同志社総長 松山 義則

同志社グリークラブの第83回定期演奏会が開催されますにあたり、ひと言ご挨拶申し上げます。
人は歓喜のとき、また悲哀のとき、はたまた祈りにあるとき、その感情が高まってまいりますと、共感する仲間と、歓びの気持、悲しみの気持、あるいは神の愛を讃える心を分かち合い、声をあげてたしかめ合うことが自然のようであります。合唱音楽のみなもとがそこにあるとすれば、これこそ人間性にあふれた行為と言えましょう。

現代における合唱音楽は、美しい旋律を豊かな表現によって、人間の感情を心ゆくまで昇華し、知らずに聴くものにも大きな共感を呼び起させます。

わがグリーメンも、こよなく音楽を愛し、合唱への情熱に燃え、すばらしいハーモニーを醸し出すため、不断の精進を積んでおります。ご高承のとおり、同志社グリークラブは、国内においては定期演奏会、他大学との交歓演奏会をはじめ、各地への演奏旅行、さらにはヨーロッパ、アメリカなど海外諸国を歴訪する、まさしく世界的な活躍を続け、多くの聴衆を魅了して、好評を博してきております。

今宵もまた、きっと皆さまにご満足いただける演奏を披露してくれるものと思います。どうか、このひとときをお楽しみいただき、今後ともあたたかいご声援を賜りますようお願い申し上げます。

同志社グリークラブ顧問 渋谷 昭彦

今夏の演奏旅行のメッセージに「84年の歴史を有するグリークラブ……」と書いたところ、もの見事に(予想通りに)、「83年……」と訂正されてしまった。原稿を勝手に直されたのではたまらないが、満年齢でしか歳を数えたことがなく、数え年の習慣を知らない現在の学生諸君には、無理からぬことであろう。84年としたのは、何も1年さばを読んだわけではない。83周年が84年目に来ることは、1周年は必ず2年目にあることから明らかである。

今回の演奏会は、83回ということになっている。定期演奏会は毎年開催するので、創立83年で83回ということらしいが、これだと1年目を数え落したことになるから、84回とすべきであろう。

同志社大学のクラブの中には、間もなく100周年を迎えようとしているものがある。ボート部は今年97周年、柔道部は91周年である。ボートの試合の後で合唱して、相手チームを驚かせたという記録があるから、グリークラブのルーツはこの頃からと考えてはいけなからうか。さらに、同志社開学のとき、8名の学生を迎えて礼拝が行なわれ、讃美歌が歌われた。これをルーツとすることも可能であろう。

83回にしよ、84回にしよ、厳密に言えば、正確ではない。同じさばを読むなら、もっと大胆に、100回とか、同志社創立112周年に合わせて、112回、いや、113回としたらどうだろう。

ともあれ、今夕の演奏会が、一年の総決算にふさわしいものとなることを願っている。

全日本合唱連盟副理事長・音楽評論家 日下部吉彦

伝統ある同志社グリーが、いまや学生合唱団としてのみならず、日本の合唱界、いや音楽界の一翼を担う“演奏団体”になりつつあることは、今夜のプログラムを見てもわかります。

ブラームス、コールリッジ=テイラー、レハール、そして新実徳英というグローバルなプロ・ビル。しかも、さまざまなスタイルが楽しめそう。なかでも“本邦初演”という「ハイヤワサの婚礼の宴」が珍しいですね。黒人の父、英国人の母を持つ、この特異な作曲家コールリッジ=テイラーの名は、日本にはほとんど知られていませんが、ロングフェローの原詩は有名ですし、原曲のオケ付き大カンタータは凄腕の曲。早速、これに着目した福永先生はさすがです。富岡先生の「メリー・ウィドウ」は、どんな演出が加わるのでしょうか？

そういえば、オリジナルの男声合唱曲は、新実作品だけで、他はすべて混声の名曲のアレンジもの。男声作品の世界的な品不足の結果ですが、同志社グリーは、混声の領域に、敢然と足を踏み込んだと見ていい。このあたりに合唱界のリーダーの責任があります。

昨年は、福永先生の体調の故もあって、勢ぞろいできなかった顔ぶれが、今年は、めでたくそろいました。新しい音楽の開拓に、一層頑張ってください。ご盛會を祈ります。

京都府合唱連盟・関西合唱連盟理事長 吉村 信良

83回めの定期演奏会ですね。永い歴史の重みをあらためて感じざるを得ません。でも今日ステージにのる現役諸君、きみたちは今生きているのです。83はもちろん大切だからこそ、「1(いち)」の重みを大事にしたいのです。伝統というものは守っていくものではない、いま攻撃して築き上げていくものだと思います。人間を理解するひとつの尺度としての「年令」は、単に時間を示すだけのものかもしれません。内容はまったく別の次元、「こころ」のものさしでは、青年よりも老人のほうが精神的にずっと若いことだってあります。伝統ある同志社グリークラブのメンバーだからこそ常に若者であって欲しいと思うのです。

今年の掉尾を飾るコンサート、貴重な一年間のさまざまな体験を経て、今日この客席に向けて、すてきな大輪の花の香を届け下さい。

演奏会のご成功をお祈りします。

東西で同志社が歌う

同志社グリークラブOB会会長 松本 寛二

12月も近づき、グリーの定演もそろそろだな、と思っていた矢先、速達便がとどいた。メッセージを書けである。さあ、今度は何を書こうか、思案しながら、チラシを見て驚いた。すごいプロだ。瞬間、我々のグリー時代にこんなプロでやらされたら、まずはお手上げか退部だな、と思いながら、しばしチラシに見入ってしまった。

それにしても、こんな曲目を、見事に歌いこなす今日の同志社グリーの実力はどこにあるのか、どうして生まれたのか、きょうも、反響のいいザ・シンフォニーホールに重厚なグリーの音楽をいっばいにひびかせることだろう。

19日、たまたまこの日、同じ時刻に東京では、OB達がサントリーホールで楽しいクリスマス音楽会を開く。東と西で同志社が歌う、うれしいことだ。どうか頑張ってください。そしてすばらしい83回目の定演として下さい。おめでとう。

関西学院グリークラブ

第83回同志社グリークラブ定期演奏会の御開催を部員一同、心よりお祝い申し上げます。
日頃から同関交歓演奏会、東西四連、関西六連と、御一緒する機会も多く、お互いに良きライバルとして切磋琢磨し合ってきました皆様の歌声を拝聴できますことは、私共関学グリーメンにとりましてこの上のない喜びでございます。樹木は、一年一年、その成長の証を年輪としてその身に刻み、大きく成長していきます。貴団も、一年間の総決算であるこの定演によって、同志社グリークラブという樹木に、音楽に対する弛まない努力と情熱の結実である一つの年輪を新しく刻み込まれるにちがいありません。何事に対しても無感動な人間が多くなった現代において、音楽、何よりも男声合唱を愛し、青春の若きエネルギーを費やし、生きた音楽を創り出そうとする貴団の姿は、きっと人々の心に何かを訴えかけ、大きな感動を受けとめさせることができるでしょう。

最後になりましたが、今宵の演奏会の御成功と貴団の今後一層の御発展をお祈り申し上げます。

早稲田大学グリークラブ

“距離”が一体何だというのでしょうか。同志社——その名のもつつかしき響き。京都と東京と離れ、年に一度しか演奏会を共にすることができぬとしても、我々の魂はいつも共に在る。それはお互いが「永遠に名づけ得ざるもの」を求めて止まぬからか。それとも全体の中における一人として「香り高い心のゆらぎ」を感得する喜びを知るゆえでしょうか。

今年は“Hiawatha's Wedding Feast”を、福永先生の指揮で初演なさるとのこと。そうした意欲あふれる熱意こそ、我々にとって大きな刺激となるのです。

ライバル——ステージにおいて競い、困難にあっては励まし合い、共に理想を忘れることなく同じ道をゆく。今宵の御成功を確信致しております。貴団が我々にとってかけがえのない存在であればこそ。

来年六月、また東西四連で再会する時を楽しみにしています。

最後になりましたが、貴団の今後一層の御発展、御活躍を心よりお祈り申し上げます。

慶応義塾ワグネルソサイエティー男声合唱団

同志社グリークラブの皆様、第83回定期演奏会の御開催おめでとうでございます。私共ワグネルアン—同心よりお慶び申し上げます。

季節は冬に移り、辺りは次第に寒さを増す頃となりました。年の瀬も押し迫り慌しさを覚えるこの時期、忙しい手を休め、心安い人々の演奏に耳を傾け優雅な一時を過ごす、これはなんと素晴らしいことでしょうか。しかし、演奏家にとってこの季節は嫌な風邪を気にしなければならぬのであります。私共も、風邪と悪戦苦闘の日々を送っておりますが、貴団の皆様方は如何でしょうか。四連の打ち上げを見た限りでは、その様な心配は無用と思っておりますが、迫力ある歌声で風邪はおろか、冬の冷えきった空気をも吹き飛ばす演奏をなさるものと確信しております。

最後ではございますが、これからも福永陽一郎・富岡健・大久保昭男諸先生方の御指導の下、増々御活躍、御発展なさることを、又、今宵の演奏会が大成功に終わりますことを合わせてお祈り申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

立教大学グリークラブ

同志社グリークラブの皆様、第83回定期演奏会の御開催、心よりお慶び申し上げます。貴団とは共にキリスト教の精神に基づく大学に学ぶ間柄であるだけでなく、この夏には京都におきまして、第24回同立交歓演奏会を開催するなど、貴団には兄弟のような親しみを感じております。貴団の力強さと、繊細さを兼ねそなえた美しいハーモニーには、部員一同心洗われる思いでした。その演奏は、私共にとりまして大きな刺激となると共に、目指すべきき目標となりました。今宵は、この一年の活動の成果を存分に披露する演奏会です。醸し出されるメロディーには日々の厳しい練習と地道な努力を積み重ねてきた、音楽をこよなく愛する皆様方の真心がこめられているのではないのでしょうか。

東京と京都という距離的障害のため、全員で貴団の演奏が拝聴できませんことが残念ですが、いつの日かまた同じステージに立てることを心待ちにしております。

最後になりましたが、本日の演奏会の御成功と、今後益々の御発展を心よりお祈り申し上げます。

DOSHISHA COLLEGE SONG

作詩 / W. M. Vories
作曲 / Carl Wilhelm

I. 「Nänie」 (哀悼歌) op. 82

作詩 / Friedrich Schiller
作曲 / Johannes Brahms
編曲 / 北村 協一
指揮 / 武内 和朋
ピアノ / 長田 育忠

II. 「Hiawatha's Wedding Feast」(本邦初演)

作詩 / Henry Wadsworth Longfellow
作曲 / Samuel Coleridge-Taylor
編曲・指揮 / 福永陽一郎
ピアノ / 久邇 之宜

Intermission

III. オペレッタ「Merry Widow」より

1. BALLSIRENEN
(舞踏会)
2. VILIJJA - LIED
(ヴェリリアの歌)
3. ACH, DIE WEIBER /
(女 / 女 / 女 /)
4. ROMANZE
(ロマンス)
5. FINALE
(フィナーレ)

原作 / Victor Léon.
Leo Stein
訳詩 / 野上 彰
作曲 / Franz Lehár
編曲 / 福永陽一郎
指揮 / 富岡 健
独唱 / 手島由紀子
ピアノ / 水谷 彰子
演出 / 花田 英夫

IV. 男声合唱とピアノのための「祈りの虹」

- 第一楽章 “炎”より
- 第二楽章 “業火”より
- 第三楽章 (ヴォーカリーズ)
- 第四楽章 “ヒロシマにかける虹”より

作詩 / 峠 三吉
金子 光晴
津田 定雄
作曲 / 新実 徳英
指揮 / 福永陽一郎
ピアノ / 久邇 之宜

Nänie(哀悼歌) op.82



ブラームスとNänie

ヨハネス・ブラームス(1833~1897)は、4曲の交響曲、協奏曲、室内楽曲等に優れた作品を残しているロマン派の巨匠であるが、声楽曲に関しては「ドイツ・レクイエム」をその頂点として、数々の優れた作品がある。Nänie(哀悼の歌)は、そのなかでも最も芸術的な作品のひとつであるが、本来は管弦楽伴奏による混声合唱のための作品であり、彼の友人で画家であったアンゼラム・フョエルバッハの死に際して作曲されたものである。

「美しいものも死ななければならない」ではじまるこの曲は、哀悼の歌であるにもかかわらず三つの楽章は全て長調で作曲され、詩の深い理解のうえにたつた静澄で高貴な和声は、悲しみを超越した美しさを訴えかけている。曲全体はほぼ単純なabaの形式からできあがっていて、ポリフォニックな部分とホモフォニックな部分がうまく組み合わせられ、美しい転調に彩られているが、その根底には限りない佗しさが漂っている。



シラーとNänie

F. シラー (1759~1805) はゲーテと並んでドイツ古典主義の完成者と称される詩人・劇作家である。代表作は、劇では「群盗」「たくらみと恋」が、詩では「第九」で知られている「歓喜に寄す」がある。この「哀悼歌」は1800年に初演、「悲歌」の中の一編である。

抑々 Nänieとは古代ローマで葬礼の際に家族の女性が歌ったフリギア音階(教会旋法のそれとは別のものであり、ドリア旋法に相当する音階である。)による嘆きの歌であるが、シラーはこの題に相応しくギリシャ神話に取材し、愛する者の死を嘆いた三つの有名な話によって詩を構成している。

ここでシラーは単に死者の生命の浄化をテーマとするだけでなく、死を美に対する観念をも表出している。それは冒頭の命題と呼応するものであり、滅びの中で美と永遠性を見事に調和させたものである。

演奏にあたって

武内 和朋

先日の関西六大学合唱演奏会で「Nänie」を演奏したときのことである。練習のときには、決してピアノシモまでもダイナミクスを下げることをしない部員たちが、もの凄く緊張感を伴ったピアノシモを聴かせた。あとで部員にきいてみると、声が出なかったのだという。なるほど、声が出ないのならば、音は小さくなるはずだ。いつも大きな声で歌っているパートリーダーたちも同じようなことをいっていた。どうしてあんなに緊張したのか。その結論はブラームスが偉大であったから、ということになった。音楽に飲みこまれて、歌い切ることができなかったのに違いない。

ブラームスを学生指揮者のステージでとりあげることはかなり勇気のいることだったが、学生指揮者と部員との間で、お互いが支えあい、納得しあって創られた音楽には、たとえ未熟であれ、少なくともなんらかの必然性があるに違いない、という想いが私にそう決断させたのだ。毎回の練習では、音楽の流れを決して失わないように、音のひとつひとつに対しても細心の注意を払ってきた。しかし、歌っても歌っても、まだその奥にいろいろなものが見えてきて、尽きることがなかった。どこまでいっても、ブラームスの本質をとらえることができない。そんな気がするのだ。

今宵、「Nänie」を再演する機会を与えられたわけだが、できれば緊張感だけでなく、深く暖かい安心感のある音楽にしたいと思う。そして一歩でもブラームスに近づくことができるように、誠実な態度でこの曲に臨もうと思っている。

Auch das Schöne muß sterben, das Menschen und Götter bezwinget!
Nicht die eherne Brust rührt es des stygischen Zeus.
Einmal nur erweichte die Liebe den Schattenbeherrscher.
Und an der Schwelle noch, streng, rief er zurück sein Geschenk.
Nicht stillt Aphrodite dem schönen Knaben die Wunde,
Die in den zierlichen Leib grausam der Eber geritzt.
Nicht errettet den göttlichen Held die unsterbliche Mutter,
Wenn er, am skäischen Tor fallend, sein Schicksal erfüllt.
Aber sie steigt aus dem Meer mit allen Töchtern des Nereus,
Und die Klage hebt an um den verherrlichten Sohn.
Siehe, da weinen die Götter, es weinen die Göttinnen alle,
Daß das Schöne vergeht, daß das Vollkommene stirbt.
Auch ein Klaglied zu sein im Mund der Geliebten ist herrlich,
Denn das Gemeine geht klanglos zum Orkus hinab.

人々と神々を感服させた美しいものもまた死ななければならない。
それは冥府の王ツォイスの堅き心を動かしはしない。
唯一度、愛が冥府の支配者の心を和らげたが、
冥府の出口で、王はその贈りものを厳しくも呼び戻してしまった。^(注1)
残酷にも猪に愛らしい身体を突き裂かれたアドーニスの傷を
アフロディーテさえ癒すことができなかった。^(注2)
神々しい英雄アキレウスがトロイのスカイヤ門で幣れ、運命が満ちた時、
彼の不死なる母も彼を救えなかった。^(注3)
しかし彼女はネロイスの全ての娘たちと偕に海から立ちのぼり、
賛えられた息子のために嘆きの歌を歌い始める。
見よ、美しいものが移ろい、完全なものが滅びるのを
神々は涙し、全ての女神は泣いている。
愛する者の口に嘆きの歌があることもまた素晴らしい。
何故ならば野卑なものは嘆きの歌もなく冥界へとおりていくのだから。



注1 歌人オルベウスは妻エウリュディケーの死を悲しみ、冥界へ降りてゆき豎琴を弾き語って冥王ハーデース(ツォイス)を感動させ、妻を連れ帰ってもよいという承諾を得るが、地上に出るまで後からついて来る妻の方を振り返ってはならぬという冥王との約束に背いたため、妻を取り戻すことが許されなかった。

注2 美の女神アフロディーテの寵児であった美少年アドーニスは狩の最中に猪に襲われて死んだ。彼女はアドーニスの流した血からアネモネを咲き出させ、彼の死を嘆き悲しんだ。

注3 英雄アキレウスはトロイ戦争におけるギリシャ軍の勇將であった。彼は不死身であったが、攻囲戦の最中にトロイ王子パリスに唯一の弱点である踵を射られて死んでしまった。彼の母神テティスは姉妹ネーレイスたちと共に彼の死を悼んだ。

「Hiawatha's Wedding Feast」



「Longfellow と その時代」

19世紀のアメリカは、イギリスのヴィクトリア朝的な文化の倫理——勤勉、抑制、向上への努力——が支配的になった時代であり、国民は自分自身も自分たちの国も啓蒙され開化されたものであると考え、そのようなイメージを散布する作家達を望んだ。彼らの趣味にとって「白鯨」のMelvilleや「緋文字」のHawthorneは余りに異様であり陰うつすぎた。このような読者大衆の心の中に受け入れられたのがLongfellow、Holmes、Lowellと言った、お上品な伝統——Genteel Tradition——の上に立った作家たちである。彼らの作品のあるものは、20世紀半ばをすぎた後も公立の学校教育の教材となっていた。したがって、これらの作家たちは多くのアメリカ人が耳にしてきた、いわゆる主要な文学を代表していることになる。

Henry W. Longfellowは19世紀のアメリカで最も人気のある詩人であった。彼の信念によれば、詩は人を楽しませねばならない。また且つ教訓的でなければならない。これらの目的を達成するために彼が用いたのは、ロマンティックな情感と平凡さであり、特性のなさど道德的な平凡さである。すなわちLongfellowの詩は、大衆の日常のもろもろの感傷をあいまいに集め、そこに教訓的な文句をつけたものである。そう言う詩であるから、礼儀正しい社会と中庸を好む人々は、自分たちも考えている、と言う気持ちになり共鳴した。彼の詩集の1冊は発売当日に1万部売れたと言われ、また、彼の75歳の誕生日には合衆国全土の公立学校が彼の名誉を称えた。

その後アメリカ文学はRealism、Naturalism、Lost Generationと言うようにその主流は発展して行くが、これらはLongfellowなどが擁護しようとした伝統的な文化を乗り越え、新しい価値感を探求し創造しようと言う動きである。事実、今日Longfellowやその他の同類作家たちが記憶されているのは、彼らの文学的業績のためであるとは言えない。しかし、彼らの作品とその成功が、19世紀のアメリカを支配した精神について多くの事を物語る重要な文化的資料であることから、彼らがアメリカ文学史から姿を消すなどと言うことは考えられない。

合唱とオーケストラのための叙事詩「ハイヤワサの結婚」

福永 陽一郎

筆者が育った家庭は、両親ともが教育者だったから、欲しがれば、何でも買ってもらえるほど裕福ではなかったけれども、その代り、泰西名作のお話の本や「子供の科学」という雑誌など、情操と知識の増大のために役立つ書籍ならば、たいしては、いつでも買ってもらえた。そのなかに、世界の目星い「ものがたり」——日本でいうと『桃太郎』か『浦島太郎』クラスの普及度——の多くを収めた、一冊で「世界児童文学全集」という、大型の一冊の分厚い（いまでも思いたす少しすんだ青い表紙の）ハード・カヴァの本があった。かなりしっかりした文学観の持ち主が編集したのだろう。日本からは宮沢賢治の《注文の多い料理店》や《グスコートブリの伝記》が選出されて載っていたが、そのアメリカの部に、「ハイヤワサ」というアメリカ・インディアンの英雄を語り綴る叙事詩が、マークトゥエインの「ハックルベリーの冒険」などと共に載っていた。

この長編の叙事詩を著した、ロングフェローというアメリカの詩人は、現今は、図書館へ行っても、なかなか見つけにくい埋もれた名前だが、二十世紀の前半では、もっとも人気の高い詩人の一人で、「ハイヤワサ」のほかにも「エヴァンジェリン」という著名な作品もある。筆者が幼年だった昭和ひと桁の頃は、むしろ理解しやすい叙事詩の作者として、流行作家の一人として遇されていたのではなからうか。日本で編集された世界名作の全集にとり入れられても、違和感がなかった印象が残っている。

「物語集」で、絵本ではなかったが、豊富に挿絵がついていて、若くハンサムな、インディアンの村長・ハイヤワサの馬に乗った雄姿が実に魅力的で、ストーリーを読むより挿絵を眺めている時間のほうが長いくらい夢中になって、何度もページを繰りかえし、繰り返し、した思い出がある。話の起伏の雄大さとその舞台のエキゾチズムに魅せられて、小学生ながら、このストーリーを「オペラ」にして作曲する気になったことも、今では愛らしく、懐かしく、しかし鮮やかに思い出される。幼年時代の意気込みである。

主人公の名もHiawathaといい、ローマ字をおぼえての子供には、文字どおりのヒヤワタでなく、Hiをハイと読み、thaがザでもタでもなく「サ」であるのが、どこか洒落てて、ソフィスティケートされた教養ありげで、興がっていたものだった。

50年経ったある日、輸入レコード屋の店先で、偶然に、コーリッジ＝テラーというイギリスの、少し旧くなったが現代作曲家が、この「ハイヤワサ」に曲をつけ、「ハイヤワサの歌」という3部からなるカンタータに仕上げた「作品・作品30」の、第1部にあたる「ハイヤワサの結婚宴」の、1984年に録音されたばかりのレコード（LP）を発見した。

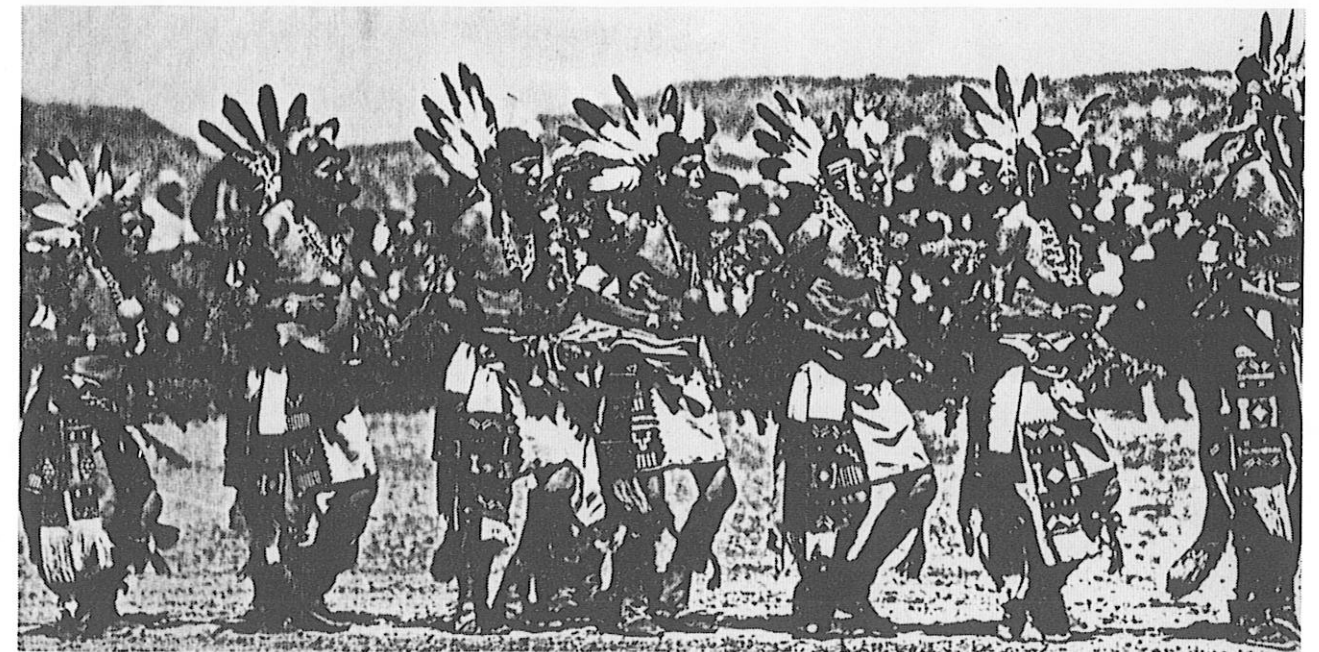
それから日数をおかずに、ノヴェロ社から出版された、この曲の「女声合唱版」を、これまた、輸入楽譜商のところで発見した。——この「偶然の発見の連続発生」は、筆者には、しばしば起こることで、前にも、チェロの聖者＝バプロ・カザルスが作曲した、めずらしい合唱曲の楽譜とレコードが、似たような偶然と経過で、ほとんど同時に手に入ったケースがあった。——

女声合唱の版があるなら、男声合唱の版もあるはず。なくても、オリジナルの混声合唱版と参照しながら作成できる筈だ。詩人のロングフェローと作曲家コーリッジ＝テラーが持て囃された時代、二十世紀の初頭には、ヘンデルの《メサイア》に匹敵する高い人気を獲得していたという。この、いわゆる通俗性の色濃い作品の、楽譜を読み、音を聴いているうちに、いまでもリヴァイヴアルの価値ありと判断した。レトロ趣味ではないが、今後は「わかる音楽」以外には手をつけまい。そして、初演もの（＝前衛合唱音楽）は指揮しないという、昨年来の決心は、脆くも壊え去ったのである。

（ただし、この日本に初めて紹介される合唱音楽は、決してわからない音楽ではない。演奏する側も聴き手にとっても、始まるやいなや、この、誰にも愛好されるような綺麗な音楽に魅せられない筈はないと思われる）

ハイヤワサの婚礼の宴のあらすじ

インディアンのハイヤワサとミネハハの結婚式はハイヤワサの祖母のノーコーミスが催しました。招かれた客たちは自分の持っている最高の服を着て出席しました。祝宴はととてもぜいたくなものでした。たくさんのおいしい料理が彼らを待っていたのです。料理を食べ終えると、ノーコーミスの催足でパウボッキーウイスが立ち上がりました。彼は、インディアンのだて者で、仕事もせず、ばくち打ちではありませんが遊ぶことにかけては達者で、ノーコーミスが言うには得意の“こじきの踊り”を披露してくれというのです。パウボッキーウイスはおしゃれでした。顔には赤黄色、青、朱色ですじを入れ、髪は編み髪にして分けて垂らしていました。毛皮の服にははりねずみの針や貝殻が縫い込んでありました。彼の踊りが始まりました。ゆっくりとパンサーのような動きで始まったその踊りは次第にスピードをまし、激しくなり、回りの木の葉や砂も舞い上がったのです。彼はぐるぐる回り、ぴょんぴょんと飛びはねながらその愉快的な踊りを踊ってみんなを楽しませたかったのです。次に、お客たちはハイヤワサの友達1人で、音楽家で、1番きれいな声を持っているチピアボスに得意の“愛と憧れの歌”を歌ってくれ、と頼みました。チピアボスはそれにこたえて歌いました。甘く、優しい強弱をつけて情緒たっぷりの調子で、そして彼の目はただ祝宴の主役、ハイヤワサと、ミネハハをじっと見つめながら。その次にお客から声のかかったのはイアゲーでした。彼はノーコーミスおばあさんの友達でちまたでは不思議な話をする人として通っていました。彼の測り知れない作り話はみんなの話の種でした。この年よりが実は幼いハイヤワサにゆりかごを作ってあげたり、弓矢の作り方を教えてあげた人だったのです。みんなの期待に答えてイアゲーは、宵の明星から降りて来た魔術師オッセオの奇妙な冒険の話をしました。こうした来客の催しは祝宴をととても楽しくし、時を陽気にしました。招かれたお客たちもとても満足して帰って行ったのです。ハイヤワサはとても親切で、お客のために料理の用意をしたりして、ミネハハもとてもきれいな女性でした。こんな2人の祝宴はこうして楽しく終わり、残った2人はとても幸せだったのです。



オペレッタ「Merry Widow」より

オペレッタという言葉が最初に使ったのはモーツァルトだと言われるが、オペレッタという言葉には、オペラより小さな…軽く楽しい、愛すべき音楽というニュアンスが含まれる。それから1世紀をへた19世紀のパリで「天国と地獄」をはじめとする今日のオペレッタの数々が誕生した。「芝居は社会を映す鏡」とはシェイクスピアの言葉ではあるが、これらのオペレッタは政治や男女の姿を痛烈に風刺し、人間社会の猥雑さと奔放さを笑いの中に表わした新しい庶民芸術としてパリっ子たちを魅了していた。そして、これがウィーンに渡るとたちまちその風土に同化して人気を博し、やがてはスッペやミレッカー、J.シュトラウスによってウィーン風のオペレッタが次々と発表されることになるのである。

「メリーウィドウ」の作曲者であるフランツ・レハールは、ちょうどその頃1870年にハンガリーで生まれる。彼はプラハ音楽院で作曲の勉強を積んだ後、軍楽隊長としてウィーンに住むようになった。当時のウィーンといえば、爛熟した文化が燃えさかり、虚無とけだるい快楽の溶け合った黄昏の時代であった。ホフマンスタールは世紀末の憂愁を詩情豊かに表現し、クリムトやシーレはオリエンタルなエキゾチズムを芸術に託しデカダンスを体現しようとしていた。こうした世紀末的な空気の中で、レハールは自ら判断してオペレッタの道を歩むようになる。ハンガリーの情熱とウィーンの繊細さを持つ彼は、「ウィーンの女たち」を上演してウィーンっ子の人気者になったあと、1905年に発表した「メリーウィドウ」によってその才能を開花させる。J.シュトラウスの「こうもり」と並んでオペレッタの最高峰に掲げられるこの作品には、大胆なエロティシズムの表現や踊りをふんだんにとり入れたり、独特の味を持つウィンナワルツをロンド主題のように用いて絶対的中心に持つてくるという革新的な試みがあった。それに加えて人々を引きつけたのは、そのメロディーの美しさ、憂愁を秘め、甘美で少し不健康でありながら情熱的に男女の機微を表現する音楽であろう。他愛ないメルヒェンのような男女の恋に、いつになっても変わらない人間と恋の本質を描き込んだ官能的な音楽は、人の心に切なく訴え、この作品をいつの世でも誰からでも愛されるものにしてしまったのである。

さて、今回の定期演奏会のステージでは、そのオペレッタ「メリーウィドウ」の中からいくつかの有名な旋律をとり出して演奏を行なう。分かり易く誰にでも楽しんでもらえる日本語の歌詩を使用し、振り付けを含めた演出を企画してのステージであるが3つのW(ワルツ・ワイン・ヴァイヴ(女))を真髄とするウィンナオペレッタの世界、美しい旋律のつまった夢の小箱のようなこの世界の魅力を心ゆくまで味わっていただければ幸いです。世紀末の爛熟した世にくり広げられた相も変わらぬ男女のドラマ、日常のすぐそばにある官能的な愛の世界へ、それではそろそろ、心うきたつ三拍子に乗せてお運びすることにいたしましょう。



I BALLSIRENEN

ときめく心に高く調べはささやく恋を！
触れ合う手をひそやかに 流れる恋の吐息！

ささ、こちらへさあ皆様素晴らしいワルツです
胸はときめく、足どり軽やかに踊りもはずむ
心軽く さあ 楽しくこのワルツに合わせ
夢の輪の中で名残り尽きぬ今宵を！

恋の夜はすぐに移ろいゆくものよ
夢はいつか醒めゆく、花の色香よ
世にも妙なる調べ 羽のように軽く
今宵こそは踊りましょう夜の明けるまで

ひとはだれも明るく暮らして
幸せにあふれてひとときを楽しく
さあ手をとり続けよう踊りを
喜びの心に幸い宿る

華やく宴は足どり軽く
ワルツのリズムにこの胸弾む
響くよ楽の音ふしも明るく
今宵の集いはここに賑やかに

踊りのその最中に恋人寄せ合う胸
燃える想いはあふれて夜の更けゆくまに

狂おしくも高鳴る胸、
君に寄せられし慕りゆく！

さあ！ いざや！ さあ！ 友よ！ ここに！

IV ROMANZE

心の庭のバラの花は君の恵みの日ざしを受けて
暖められて花開くよう、愛の花びら夢の花よ！
おさえられない胸のなやみ、恋しさつり開く花よ！
高くこずえに日蔭慕いて、謳う小鳥の嘆きに似て
燃える心に答えたまえ！

ヴァランシエンヌ
おおカミーユ！

カミーユ
ヴァランシエンヌ！

ヴァランシエンヌ
離して！
罪を重ねないで

カミーユ
せめて別れのくちづけを！

ヴァランシエンヌ
だめよ！

ああ、あずまやでなら人の目に触れずに
最後のくちづけをかわすことができる！
ひそやかな闇の中で、さあ あずまやにゆこう
甘いひとときを、いざ！

II VILIIJA-LIED

ハンナ
それじゃどうぞひとときを
わが祖国の御祝いにふさわしい
お国ぶりでふるさとをしのびましょう

なつかし我が故郷よ！なつかし遥かな空よ！
緑の草原に春の陽浴びながら愛する乙女達
手を組んで踊るのだ！遥かな我が国よ！ハイ！

ハンナ
遠い故郷をいつも思い出す懐かしいあの歌、
恋のヴィリアアの歌！
その名はヴィリアア森の精、森の奥に棲んでいた
ひと目で恋にとらわれた不幸せな若者は
悩みにもだえ、想いは乱れる 熱い吐息と共に
ヴィリアアおおヴィリアア森の精、
この命捧けても
ヴィリアアおおヴィリアア
我が恋を遂げさせたまえ

娘は手を差し伸べて彼を家に導けば
身も心も溶けるほど熱い恋に酔いしれた
その時突如その娘は消えた、愛の形もなくて

ヴィリアアおおヴィリアア
永遠に求めるヴィリアア

III ACH, DIE WEIBER /

女を射止める手段はいかに？
何ひとつないぜ神様でもさ
この女をなびかす手段は
誰も手に入れていない
お偉い学者も！
ちやほやしてみても！あの手この手も！
駄目だよ無駄なのだ！あの手この手も！
澄まして見せる手も！あの手この手も！
なぐりつけてみても！あの手この手も！
ねこなで声も駄目！あの手この手も！
怒ると泣きだすし！あの手この手も！
ほめればつけあがるし！あの手この手も！
なにかもさえない！あの手この手も！

※ (さて女というものは、測り知れない謎だ！
まことにややくししく それが女、女！
清くやさしい乙女 そのうぶな瞳も
赤毛、黒毛、染毛、どれも男をまよわす！
やれやれ、女とは ああ！

※ くり返し

ヴァランシエンヌ
とても もうさからえない
大丈夫かしら もうだめよ

ひそやかな闇の夜も
今宵愛の炎燃えて明るく輝けよ

ハンナ
本当にあの人は行ってしまいかしら
まあ、あたしにささやいていた
あの同じ言葉だわ！
そうよ ふたりの愛はここにやがて！

カミーユ
おさえられない胸のなやみ、恋しさつり開く花よ
高くこずえに日蔭慕いて謳う小鳥の嘆きに似て
燃える心に答えたまえ

ダニロ
僕の心は乱れてまだあきらめられぬ！
今はここを逃れて時を待とう！
僕は今すぐにここを去ろう！
僕は今すぐにここを去るぞ！

ツェータ
なにもわからなくなった！
確かに妻じゃないぞ、あの男と一緒にだったのは
もしも妻なら許すものか！
こんな我が身があわれ！

祈りの虹

男声合唱とピアノのための「祈りの虹」は新実徳英により、大阪大学男声合唱団の委嘱作品として、昭和58年8月に完成された。選ばれた三篇の詩は、いずれも第二次大戦のその結末となった原爆投下を経て、人間世界に絶望し怒り、また消えゆかんとする自らの命を見つめつつ書かれたものである。新実はその詩のうえに、殺伐のための道具でしかない核兵器・通常兵器と、それを作らしむる人の、人を信ずることのできぬ心への怒りと、世界の平和と人類の浄化への願いを込めてこの大作を作曲している。

第1楽章“炎”より——冒頭に歌われるAve Mariaという祈りは、知らぬ間にねじられ、ゆがめられてゆく。そして強烈なピアノとともに、1945年8月6日、広島に原爆が投下された後の、地獄絵さながらの様子が、まるで叫びのように歌われる。

第2楽章“業火”より——やりどころのない怒りと苦しみとが、激烈なリズム、複雑な変拍子、ゆがんだ和音などのあらゆる方法を用いて表現される。

第3楽章 ヴォーカリーズ——全てを失い、廃墟と化した暗黒の世界のなかで、死者の魂が泣き叫ぶ。ことばにしつくせない死者と苦しみと悲しみ、その魂の叫びを、ヴォーカリーズだけで表現する。そこには、ことばを超えた無言のメッセージを感じとることができる。

第4楽章“ヒロシマにかけける虹”より——戦後しばらくしてヒロシマを訪れた詩人は、夜明けとともに、よみがえった街を目の当たりにする。ヒロシマは生命をとりもどし、そこには平和を求める人々が集まってくる。その後「いまは物質と精神のけじめも……」というところから、音楽は新しい出発点をむかえる。音楽はまるでシンフォニーのような厚味をもって常に前進をつづけ、精神的・肉体的に高揚していく。そして人類に対する、神の真実と恵みの象徴である“虹”に託して、世界の平和を歌いあげるのである。その頂点で再び歌われるAve Mariaという祈りは、やがて美しい平和への響きとなり、全曲が結ばれる。

カンタータ「祈りの虹」の存在理由と存在価値

福永 陽一郎

画家であろうと文筆家であろうと、はたまた音楽家であろうと、芸術創造にたずさわる日本人のすべてが、あの1945年8月6日の『広島悲劇』を、自分なりの方法・手段で表現しよう、表現したい、と念願する。これは当然の衝動であり念願でもある。

いままでに、数多くの「原爆カンタータ」が、日本だけでなく、海外の現代作曲家をふくめて、詩や文章を越えたコミュニケーションの手段としての〈音楽〉〈声〉〈歌〉による記憶の回復やリアルで記録、そして永遠の語り部としての役割をはたそうとして、作曲されてきた。その上に、新実徳英氏の作品が加えられたわけだが、この作品は、この作品以前の「原爆カンタータ」に加えて、屋上屋をかきねる作業ではなく、もう一人の作曲家とその作品が、それだけで、すでに『もう一つの証言』の価値や存在理由であること以上の、独自のユニークさをもって、過去を一新する、際立った音楽作品となった。

いままでは、いろいろの作曲家が、ものごとの発端である原爆投下、その破裂・爆発の瞬間を「音」であらわそうと、極端な“不協和音”や電子楽器の衝撃的なffを使って、種々の試みをしてきた。しかし、どのような大音響も、原子爆弾の爆発を再現することは不可能なことである。

新実徳英氏は、原爆の投下と爆発の瞬間を音声であらわす、という不可能事に手を出すことを、あえて放棄し、その後の、広島悲劇の惨状、地獄絵そのままの、血と、垂れ下がった皮膚とうめき声と悲鳴。音が死んで鎮まりかえった混乱。こうした『そのあと』を、的確なりリズムで描写する。こうした度を越した悲慘さを表現するには、音楽は数多くの手段を持っているわけだし、その選択は、新実徳英氏の作品を、ほかの作曲家の作品を遠く引き離れた位置におくことになった。

この男声合唱のための組曲は、「壊滅的破壊の一瞬が通りすぎたあと（後と跡）」「その日にも、毎日と同じく迫ってきた夕闇」「言葉のない鎮魂歌」という3章のあとに《祈りの虹》というテーマを差し出してくる。全体のタイトルでもあり、いうまでもなく中心主題でもある『平和』は、数十年後のある夜明け、突然にあらわれた“再訪者”の前に、一見、なにごとくも無く繁栄を続ける大都市として出現する〈広島市〉として提示されるが、“世界最初に原子爆弾を投下された都市”広島は、未来へ向かう平和の象徴のごとく姿をあらわしたけれども、それは所詮、摺むことのできない『虹』でしかない。確実に眼前に見えていて、しかも手に取ることができない“平和の象徴”は、やさしく美しい虹のように、いつも、いつまでも、彼方に見えているだけで、近づこうとすると、また、その向こうに遠ざかっている。きわめて奥行き深い思想の表出として、この合唱曲《祈りの虹》は、一つの解決を提示しつつ、また、未来への未知（道？）も残しておく。こうした“平和”を安易に美化しないという意味でも、ユニークであり、かつ永い生命をもつ音楽上の傑作として、存在理由と存在価値を実証してゆくに違いない。

第一楽章“炎”より

衝き当たった天蓋の
まくれぬがった死被の
垂れこめた雲の
薄闇の地上から
煙をはねのけ
歯がみし
おどりあがり
合体して
黒い あかい 蒼い炎は
煙く火の粉を吹き散らしながら
いまや全市のうえに
立ちあがった。

藻のように ゆれゆれ
つきすむ炎の群列。
屠殺場へ曳かれていた牛の群は
河岸をなだれ墜ち
灰いろの鳩が一羽
羽根をちぢめて橋のうえにころがる。
びよこ びよこ
噴煙のしたから這い出て
火にのまれてゆくのは
四足の
無数の人間。
噴き崩れた余煙のかさなり
髪をかきむしったまま
硬直した
呪いが燻る

濃縮され
爆発した時間のあと
灼熱の憎悪だけが
ばくばくと拡がって。
空間に堆積する
無顔の沈黙

太陽をおしのけた
ウラニウム熱線は
処女の背肉に
羅衣の花模様を焼きつけ
司祭の黒衣を
瞬間 燃えあがらせ
1945, Aug. 6
まひるの中の真夜
人間が神に加えた
たしかな火刑。
人間が神に加えた
たしかな火刑。
この一夜
ひろしまの火光は
人類の寢床に映り
歴史はやがて
すべての神に似るものを
待ち伏せる。

第二楽章“業火”より

業火は照らす。

ながれてた寺岩を
もみあつた
鬼どものつらさ。

業火は振ちくれて
燃えつづける。
石油で
人間のあぶらで。

あぶらは膝からふき出し
じくじくと臍から流れ出る。
(ありとあらゆる
奇妙きてつな死にざま。)

こはれた砲車や鉄片で
足もふんごめぬ焼原に、
つぶれた顔
とろけた手足。

窯のなかにならんで
火のまはった壺、人の胴。
もえつきたみあかし
灰になった神。

(みわたすかぎりの石壁
そこそこに岩、
燃えのこる紫のほのほ
業火にふれて
石に化つた卵を

(石に化つた卵を
解ることのない叡智を、
むなしく杖で叩くのは、誰。
捕虜となる恥よりも前に、じぶんで
おなかをやぶくと公言する将官たちは
命令する。
「あかん坊どもよ。立って銃をとれ。」

第三楽章(ヴォーカリーズ)

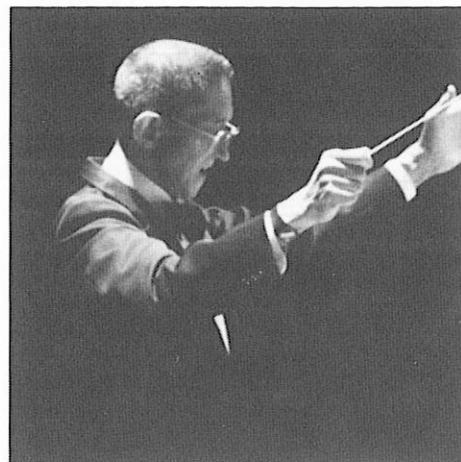
第四楽章

“ヒロシマにかけける虹”より

潮の香がしづかに吹きわたると
まだ冷たいしじまの砂に
黎明はひたとよせてくる
次第に公園の楠の木は明るく
見えかくれする記念碑たちは
あかく映えて
ヒロシマはよみがえってくる
みなぎり昇ってきた八月の太陽は
もう暗い影絵ばかりをつくりはしない
水晶のような川底の砂は
デルタからのぼってきた魚と
キラキラ光りながら語り合っている
あやまちを再び繰返してはならない
とぎすまされたほくの眼と
和らぎを求める人々の眼が
ヒロシマに集まり
チリチリ 時を刻んで
死者の時を待っているのだ

いまは物質と精神のけじめも
究極の対立もなく
互いに普遍者の中に助け合い融合して
生命の河は流れてゆくのだ
もはやカルマもゴルゴダの夜もない
ほくは光り輝く霊となり
エネルギーとなって
青みわたる空のなかに
昇華してゆく……
一陣の風がおこれば
霊はしたたる水となり涙となって
くぐり抜ける光に美しい虹を咲かせる
おお これこそ真の神より
ヒロシマにかけける救いの虹
そして(ヒロシマの)普遍者に応える
祈りの虹
七色に大きく二つの輪をえがき
いつしか象徴の花に融け合い
輝き合っていく

注 - () 内は曲中に使用されていない部分。



技術顧問 福永陽一郎

1926年、神戸市生まれ。指揮法・オペラ演奏法関係では、近衛秀麿、マンフレッド・グルリットに師事。オペラ関係の経歴—1951年2月、藤原歌劇団に練習ピアニストとして入団。9月、合唱指揮者陣の一人になる。53年、公演指揮を始める。54年までに9演目。1954年、歌劇《マノン》大阪公演で、オペラ指揮者としてデビュー。1956年～64年、藤原歌劇団・常任指揮者。56年9月～12月の同団アメリカ・カナダ公演旅行に同行指揮。64年までに27演目。1959年～67年、NHK主催《イタリア・オペラ》公演（第2回～第5回）に、副指揮者・合唱指揮者として参加。67年までに、延べ、計13演目。1959年11月、藤沢市民交響楽団、結成・発足。72年、藤沢市（神奈川県）文化担当委員に就任。73年10月、藤沢市民オペラ第1回公演《フィガロの結婚》。85年までに10演目。1986年、1985年《アイダ》4回公演を成功させ、《ウィリアム・テル》日本初演（83年）等々、《藤沢市民オペラ》。他の意義ある数々の事業の推進主体としての「藤沢市民会館」が、86年度「音楽之友社賞」を受賞。合唱音楽関係の活動と指導—1953年、第2回東西4大学合唱連盟の音楽会の、合同演奏の指揮を引き受けたのを機会に、アマチュア合唱団の指揮を開始。以来、同志社、西南学院のグリークラブ、法政大学のアカデミー合唱団（混声）早稲田大学グリークラブ（順不同）小田原男声合唱団、藤沢男声合唱団。それに湘南コール・グループなどの常任指揮者ならびに類似の専任指揮者を現在に到るまで歴任。または重任。ほかアマチュア合唱団への客演指揮、多数。講習会の講師、コンクールの審査員など、35年間におよぶ、合唱活動。単行本3冊、音楽雑誌等の評論活動。等々。1952年より、神奈川県藤沢市在住。「神奈川県文化功労者賞」受賞。1987年、「神奈川文化賞」受賞。

今年も終わり近く、しあわせ一杯、うれしさ一杯、本当に、生きてよかったと心の芯から思うことの多かった一年を振り返りながら、わが身に不相応な神の御恵みに対し、感謝と慙愧の交錯した祈りを口ずさんでいる私です。

春の終わりちかく、OB 4連の合同演奏を指揮して、幸福の絶頂を思い知らされ、秋口には、同志社グリークラブOB会の胆入りで、私の同志社グリー指揮・25周年の記念パーティーを開いていただき、「文化の日」には、昨年の（市民会館に贈られた）『音楽之友社賞』につづき、神奈川県民にとって最高の名誉である、県の『文化賞』を受けました。

このように、もう終わり近くにきた証明（燈火は消える前がもっとも明るい）のように、榮譽に輝く人生をかえり見て、たとえば、同志社グリークラブひとつにしても、たゞ指揮者として長いあいだ招かれていた人間であるという雇用関係ではなく、それ以上に、私の一生の大きな伴侶であったことを、思います。私から同志社グリークラブを取り去ったら、私の人生そのものが消滅します。

今年、従来に倍したエネルギーを回復している私が、一心同体の片割れともいえる同志社グリークラブを、タイミングが一致して、気持ちよく指揮できる環境が整えられたのも、本当に嬉しく、神の不思議な摂理に感謝の祈りを捧げつゝ、ステージに出てゆく私なのであります。



指揮者 富岡 健

大阪に生れる。同志社大学法学部卒業後、1974年より3年間ウェーン州立大学音楽学部指揮専攻科に学ぶ。その間、同校のStudent Assistantとして合唱、アンサンブルの授業を担当するほか、デトロイト・シンフォニー・ユース・オーケストラの指揮者団の一員として研鑽を積む。

帰国後、各地のオーケストラ、合唱団の指揮にあたる。中でもハイドン、モーツァルトの宗教音楽をオーケストラとともに積極的に取り上げている。またオペラ分野にも意欲をみせ、84年から関西二期会の副指揮者として活躍中。

指揮法を福永陽一郎、若杉弘、H・ラングスフォードの各氏に師事。現在、大阪芸術大学講師として指揮法、合唱を担当。

今年は福永先生のお体の回復という嬉しい知らせとともに、定期演奏会では2ステージもお振り頂けることになり、私としては実に楽な気持ちで演奏会に望めます。

グリー現役からの要請ということもあって、私が受け持つステージ、メリー・ウィドウではナント振りをつけることになりました。最近の現役の皆さんはやたらオペラに開眼したらしく、前回のヨーロッパ旅行でのオペラ鑑賞、昨年の定演でのタンホイザーといった経験から、どっちみちオペレッタをするからには振りをつけてやってみたいとの声がかかり、つい tonight グリークラブの歴史上、かつて見る事の出来なかったステージをみなさんに御覧頂くことになってしまいました。(幸か不幸か)

と、いっても私にはとても演出なんて芸当はできませんので（グリーのメンバーの実態をよく知っているだけに）関西二期会等で演出のお仕事をなさっている花田英夫さんにそちらのほうはお任せしました。

音楽のほうは、これまた関西二期会で御活躍のソプラノの手島由紀子さん、ピアノの水谷彰子さんの御協力をいただき、若々しいメリー・ウィドウになるのではないかと秘に期待いたしております。



ヴォイストレーナー 大久保 昭男

昭和28年、東京芸術大学音楽科を卒業。矢田部勤吉氏に師事された。近衛秀麿指揮、青山杉作演出によるオペラ「カルメン」のモラレス役でデビュー。山田耕作指揮、オペラ「黒船」、ドヴォルザークのオペラ「ルサルカ」などにも出演された。昭和34年にはドイツ・リート、日本歌曲による第1回リサイタルを開かれた。

現在、昭和音楽短期大学教授、東京芸術大学講師。また、慶応ワグネル、上智、立教、明治、関学、同志社の各グリークラブ、早稲田コール・フレューゲル等、大学のトップクラスの合唱団のヴォイストレーナーとして、関東、関西で幅広く活躍されている。

第83回定期演奏会おめでとう。

今年の春は新しい一年が沢山グリーに入って来ました。初めての経験である声楽という今までに一度もない「声の音楽」を上級生と共にやって来ました。今までに本当の声を出したことの無い連中も、今では心を声で歌うというレベルまで、努力し、勉強して来ました。

人間一生の中で、始めて何かを始めるという時は、不安が殆んどの場合先にあって考えることでしょう。しかし、何回目かの大きなことを歌で始めた君たちは、もう今では大きな喜びとなって来ています。

私は永年、アマチュアのみならずと、声楽の勉強を続けていますが、毎回の練習には夢中で時を過ぎ、その成果がはつきりとする演奏で、結果的に、非常に大きな楽しさを心と感じます。音楽にはプロもアマもありません。

極端な云い方をすれば、合唱は時間と情熱を多くかけることの出来るアマチュアの方がうまく出来るのです。しかし時間ばかりかけても決していいものは出て来ません。必要なのは、より高度な指導者と共に、声を合わせて歌う一人ひとりが努力と忍耐をもって練習し、勉強することです。

世界的なオーケストラは、その演奏者の一人ひとりが非常に立派な音楽家であることと全く同じと云えます。

この学生時代に、大学では勉強出来ない「歌の音楽」をクラブでカーバイやって、素晴らしい人間を創り上げていって下さる様願ってやみません。



学生指揮者 武内 和朋

1966年2月9日生まれ。大分県立日田高校卒業後、同志社大学文学部入学、グリークラブに入部する。今年1月、第56代学生指揮者に選出され、以後現在に到るまで、同志社グリークラブの音楽活動を支えてきた。彼の音楽に対する真摯な態度、緻密な計画性、ウィットに富んだ練習、そして豊かな表現力をもったタクトは、同関交歓演奏会での「季節へのまなざし」、関西六大学合唱演奏会での「Nänie」をはじめとして、幾つもの演奏会を成功に導き、学生指揮者としての力量を、各方面から高く評価されている。

今宵が学生指揮者として棒を振る最後のステージ。その両腕にかかる期待は大きい。

「音楽は瞬間の芸術である。」といわれる。確かに絵画や彫刻が空間的であるのに対し、音楽は時間的である。だから一度生まれた響きは、時間がたてば漸減し、やがて消滅してしまうが、そこには瞬間の生命ゆえの美があるといえる。またその逆に、二度と塗りかえることのできない厳しさも持っている。つまりほんの小さなことが、音楽をおとの集まりにかえてしまうこともあるのだ。

メンバーひとりひとりの溢れんばかりの精神の高揚と緊張、曲に対する深い理解と思い入れ、そういったものが凝縮されて音楽が生まれてくる。いま確かに音楽がここにある。すべてのメンバーが感動を共有している。そう感じた時間がこの一年で何回かはあった。わずかに何回の想いは、私にとって何物にも換えることのできない美しい体験であり、かたちには残らなくとも、こころのなかに残る大きな財産であった。

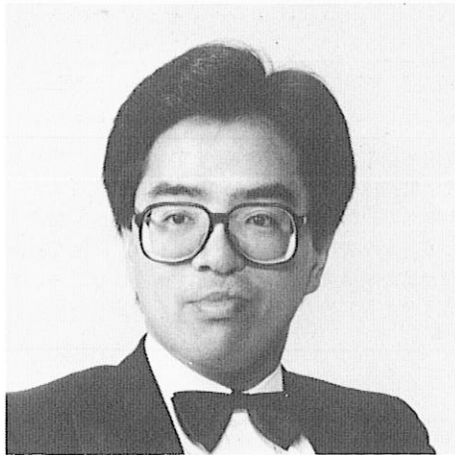
今宵の演奏会で、メンバー全員が感動を共有できるような時間があれば、すばらしいことだと思う。そのような演奏会になるように、今日はすべてのメンバーに、本当によいことをうたってもらいたい。それが私の願いである。



ピアニスト 久邇 之宜

1972年、国立音楽大学ピアノ科卒業。クロイツァー豊子、近藤孝子氏に師事。小林道夫氏に伴奏法を師事。二期会、東京室内歌劇団、NHK他各方面で伴奏者として活躍され、1981年6月、2年間のウィーン国立大学への留学を終え帰国された。今や歌曲のリサイタルには欠かすことの出来ないピアニストであり、又、福永陽一郎氏のおきパートナーとしても大学グリー等のピアノを受けもち先生の持つあたたかな、そして感受性豊かな音楽をおしげもなく発揮している。その美しい音色と力強いピアノタッチはレコード録音、NHK・FM放送等を通じて高く評価されている。

私は同志社グリークラブより伴奏の依頼があると、無性に嬉しくなってしまう。何故なら、私は東夷(あずまへびす)である。我々東夷は永遠に京の都に憧れる。そして京都御所に向かいあって、頑として存在する同志社大学、ひいてはグリークラブに対して、何とも言えぬ憧憬の眼差しをもって相対してしまうのだ。そして、たとえ一刻であってもこの美しい古都を散策できる喜び、幸せにひたる事ができるのだ。そして夕刻ともなれば、同志社グリークラブのハーモニイの中に、自分を浸す事ができる。これが無上の幸せでなくて何であろうか。今年は前期にもこのグリークラブと東西四連で一緒にさせて頂いた。その時は富岡健先生との初共演であり、その演奏は永く私の心に残るものであろうと思う。今回は恩師福永先生との2ステージである。この、まるで様相の違う2ステージのためにシューマンではないが、私は私のフロレスタンとオイゼビウスに総動員をかけ、魂身を込めて演奏する覚悟である。それが東夷であるこの私をわざわざ都に上らせてくれた同志社グリーに対する恩返しであり、また至上の演奏をしてくれる彼らへの礼儀である、と思う故に。



ピアニスト 長田 育忠

同志社大学法学部卒業。独唱、合唱の伴奏者として、また宗教音楽のオルガニストとして数々の演奏会に出演。

86年2月のボストン交響楽団京都公演(マーラー：交響曲第3番)の際、小澤征爾氏の指揮による合唱練習に伴奏者として参加。同年6月ソプラノとピアノによるジョイントリサイタルを開催。

ピアノを山下啓子、遠山つや、松野景一、山崎孝、N ジョルジ(リスト音楽院教授)の諸氏に師事。和声学を島田和昭氏に師事。

現在は伴奏者として幅広く活躍する一方、合唱のための編曲も数多く手がけている。

毎年11月から12月にかけて、私は合唱団の練習のために同志社大学の音楽総合練習場である「新町別館」に足しげく通うことになるのですが、この時期になると、5つもある合唱団が各々定期演奏会を控えて、練習室はもとより部室、廊下、階段、さらには建物の外にまで集まり、最後の仕上げの練習に余念がありません。その活気ある雰囲気といい、また壁に張られたおびただしい数のポスターといい、まるで音楽大学に来たようにさえ思えるのです。

それらのポスターを見てみると、ルネサンスから現代日本の作品まで多種多様に並んだ曲目の中に、大作「ドイツ・レクイエム」と今日演奏される「Nänie」という2つのブラームスの作品がありました。今日演奏される「Nänie」は15分足らずという短い曲ではあっても、その音楽的内容の深さは大作に勝るとも劣らないもので、こんなすばらしい作品を取り上げた学生指揮者の武内和朋君と同志社グリークラブの皆さんの意欲には頭が下がる思いです。

ブラームスの音楽は私にとって、何故かいまだにむずかしくとっつきにくいという印象があるのですが、今日はそんなことを忘れて、グリークラブの皆さんと共にブラームスの音楽の奥深さを味わいたいと思います。

今年もグリークラブの皆さんと多くのステージを共にできたことを心から感謝します。



ソリスト 手島 由紀子

1985年、京都市立芸術大学声楽専攻卒業。定期演奏会、卒業演奏会、関西音大協新人演奏会に出演。ライナー・ホフマン氏、H・ビューグ＝ロジェ女史、ヘルムート・クレッチマルク氏の公開レッスンを受ける。コダーイ「テ・デウム」、モーツァルト「戴冠ミサ」等のソプラノソリストを務める。その他、ジョイント・リサイタル、サロン・コンサート等に出演。オペラデビューは1987年神戸秋の芸術祭において、「フィガロの結婚」のケルビーノ役。京都音楽協会賞受賞。フランス音楽コンクール第2位入賞。木川田誠、河本喜介の各氏に師事。現在、京都市立芸術大学大学院に在学中。関西二期会準会員。

私が始めて同志社グリークラブの演奏を聞かせて頂いたのは、7年前の6月、東西四大学合唱演奏会でのことでした。その時の感動は、今なお忘れ難く心に残っております。そして今回、日本を代表するこのグリーの方々と一緒に歌わせて頂けますことを、大変光栄に存じます。

今宵の「メリー ウィドウ」も、オペレッタとは一味違う男声合唱の魅力で、皆様を楽しく、美しく、甘く、そして華やかなパリの社交界へとお誘いすることでしょう。微力ながら私もお手伝いができる様、精一杯歌います。

最後に、同志社グリークラブのますますの御発展と御活躍を心よりお祈り致します。



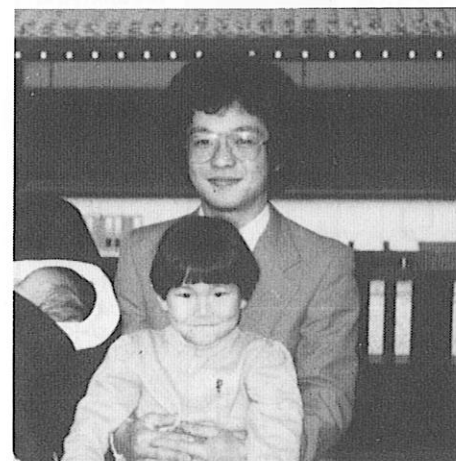
ピアニスト 水谷 彰子

神戸女学院大学音楽部ピアノ専攻卒業。小柳芳子氏に師事。華の会「歌とピアノの夕べ」、大阪シンフォニー管弦楽団特別演奏会等に出演。ソロ活動の他にオペラ・声楽合唱の伴奏、室内楽等で幅広く活躍、関西二期会、大阪オペラ協会、ピアニスト。

このたび、伝統ある同志社グリークラブの皆様と一緒に演奏する機会に恵まれましたことを、たいへん嬉しく存じます。

女声合唱の経験しかなかった私は、数年前はじめて男声合唱を聴いた時、重厚な Bass に支えられた素晴らしいハーモニイに、深い感銘を受けました。今回の練習では、その豊かな響きにつつまれて、まるでオーケストラとコンチエルトをしているような気分にもなりました。

グリークラブのメンバーはみんな、いつも礼儀正しく、真面目で、且つ純情(?)です。その方達が、今宵ひととき、甘美な「メリーウィドウ」のワルツにのって、如何にパリの伊達男に変身するか……。とても楽しみにしております。



演出家 花田 英夫

昭和53年大阪芸術大学舞台芸術学科演出専攻卒業。

定期演奏会おめでとうございます。この度、富岡先生からのお誘いで、はじめて参加致します。富岡先生とは六年ほど前からのお付き合いで、男だけで動きのあるウイナーワルツに挑戦と言う無謀な話に乗せられてしまいました。

第三ステージの題材は、酒と女とワルツと三拍子揃ったオペレッタ「メリーウィドウ(陽気な未亡人)」です。伝統あるグリークラブのメンバーは実に品行方正、健全で(私はそう思いたい)、酒、女、の部分ではすこし不良してもらわなければなりません。そこは富岡先生にお任せしました。

幸いにも今回はソリストの手島由紀子さん、ピアノの水谷彰子さんと美女二人に恵まれ(私はそう思いたい)どのような恋愛ゲームが成立しますかどうか?

グリーの面々にはいろいろと無理な注文ばかりでしたが、お楽しみいただければ幸いです。

わたしと「同志社グリークラブ」

技術顧問 福永陽一郎



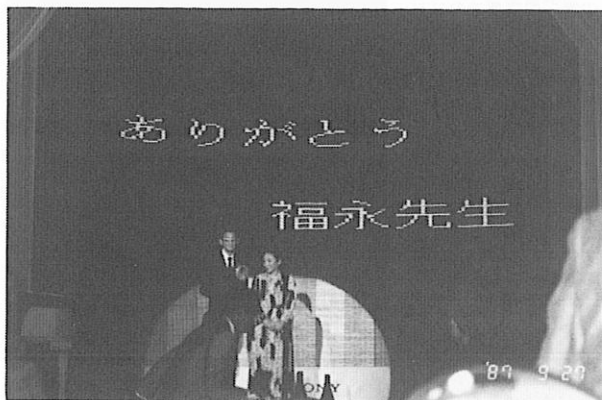
わたくしが、同志社グリークラブに出会ったのは、あれは1953年、東西4大学合唱音楽会の第2回が東京で開催されたときでした。偶然のなりゆきから合同演奏の指揮をする羽目になり、そのとき初めて、同志社グリークラブの合唱を聞いたのです。その当時、同志社グリークラブでは、音程の正確さを求めて、声量に制限を加えたりはしていませんでした。そう思いましたし、美声が最大の美德で、いい声の団員が多く、そのような美声の持ち主はみんな、おおらかに自慢の声を張り上げ、競いあっていました。自分の得意な面を、聞き手のまえに思う存分披露するのは、実に気分の良いものなのでしょう。その“いい気分”を押さえたり隠したりしないで、堂々と正面きって自慢げにしている若者というのは、けっしてイヤミな、さもない人間でなく、見ているほうでも楽しいものです。そうした“個人の愉しみ”が合唱のなかでどのくらい許容されるかは、ひとつの論点でしょう。その証拠に、その当時の同志社グリークラブがもっとも得意とするレパートリーは、(聴き手の耳を甘美なソロが横取りすることがない「宗教曲」でなく)ソロを全面に出してコーラスがバック・アップする形が多い「ロシア民謡」でした。そうした、いかにも楽しそうにうたう若者集団を見ていて、たとえ少々ハーモニーが雑であり、アンサンブルが精密きわまるというのでなくとも、聴衆もまたおおいに楽しんでいました。

それまで、合唱音楽のことを、『綺麗なもの』『素晴らしいもの』『感動的なもの』だとばかり思ってきた私は、そのほかに『楽しいもの』『愉しむもの』であることを知らされて、一挙にそれ——つまり《同志社グリークラブの合唱》——に飛び付きました。

同志社グリークラブのいままで知らなかった合唱のやり方が、私にはひどく新鮮に感じられ、また、その頃のスタッフ連中をはじめとして、クラブの持つ雰囲気、居心地の良さが加わり、その上、まだよく知らなかった京都という土地も、私にとってたいへん魅力的だったということもあって、仕事で関西方面に行くと、その度に、ヒマさえあれば、旧・YMCAの玄関わきの一室にあったグリークラブの部室を訪ねるのが、私の習慣になりました。駅を降りてタクシーに告げる「カラスマ・イマデガワ」が、もともとこの土地に縁の薄い私が、最初に記憶した京都の地名でした。

私と同志社グリークラブとの関係は、正式には、伝統のない関西で、初めてで、先例の無い『常任指揮者』という役職を設置し、その地位を恒常的で確実なものとするために、燃えたぎった情熱と、溢れんばかりの誠意を持って、何事にも正面からぶつかっていく浅井敬壹氏の、幾度も幾度も重ねた要請やら説得が実を結んで、私が『技術顧問』という名の常任指揮者に就任したときに始まった、とするのが正しいのに違いありませんが、私が同志社グリークラブの合唱をひと目惚れで「好きだ」と思ったその気持は、初対面の日からの30年以上の年月、一度も変わらず、ずっと一本の紐のように続いていましたから、“私の人生”の半分は、嬉しいも悲しいも楽しいも苦しいも、みんな同志社グリークラブと一緒にやってきた、としか思えません。

地球に人間社会が続くかぎり永遠に続き、日本の合唱の高いレベルの実証者であり続ける光輝ある同志社グリークラブ。千年も万年もある合唱史の中で、ごく小さい粟粒ながら、ほかの誰よりすこし長い現役在籍の《部外員》は、イレギュラーなだけに注目を集める可能性が大きいだろう。そう思うと、その光栄の巨大さに押し潰され、対処のしかたが不明で、真実、困ってしまいますが、身の置きどころがなくウロウロする情ない格好が、私に与えられた最大の栄光の証であることを思い、じいっと蹲っているわたくしです。(同志社グリークラブ80周年記念誌より抜粋)



(福永先生指導25周年記念パーティーより)

—福永先生—パーティー and 現役の福永先生を囲む会

1987年9月27日、京都の宝ヶ池プリンスホテルにおいて「感謝の集い・福永先生とともに」が盛大に開かれ、現役も心をこめて、得意のレパートリーの中から数曲、歌った。(左ページ下写真。)一言に25年といっても色々な時代があり、同志社グリークラブの全盛時代のOBの話もあれば、人数が少なく、大変苦労されたOBの話もあり、どんな時代にも福永先生が暖かく見守っていて下さった事を、来場のOBや色々な関係者の方々、現役共々、感謝の気持ちでいっぱいであった。9月28日、29日、30日と現役は、福永先生に、定期演奏会の曲をみていただいたわけだが、先生の練習は、独特のムードがあり、私共は、よく未知なる世界の中で歌っている自分にはっと気がつく事がある。現役のメンバーから福永先生に25年間の色々なお話をお聞きしたいという要望が高まり、30日晚、練習終了後に先生にお願いして、福永陽一郎先生を囲む会をもつ事ができた。料理とお酒が入り、練習の時とはまた違ったリラックスしたムードの中で、色々な話が盛り上がり、もちろん、定演の曲目に関する事などもあったが、いつもは福永先生と直接お話しをする事のできなかった下級生達が多く来ていたので、このような機会にしか出来ない質問を、福永先生に一問一答でお願いした。全員の話を書きたいのだが、スペース的に無理があるので数名取り上げてみた。

福永先生と現役グリーメン一問一答

吉岡(4回生) 最近、同志社グリーのバリトンが同志社グリーのバリトンらしくないといわれるのですが、昔のバリトンは、どうだったのですか?

福永先生 Baritoneにはいつもでかい声を出す人が1人2人いて、あとはどうでもいいというおおざっぱなところがあったなあ。(部員一笑)

吉岡 今のバリトン、そのものですよ!

佐土原(2回生) きれいなメロディーと、すてきなリズム、どちらが選択するとしたら、どちらを選ばれますか?

福永先生 僕はきれいなメロディーを選ぶよ...

安池(3回生) 合唱とカラオケとの違いをどう思われますか?

福永先生 一番大きな違いは、合唱は一人ではできないということだね。合唱では自分だけ歌えればいいんだという事ではいけないから、カラオケ歌いで合唱はできないけど、カラオケがうまければ同じ歌だから、合唱にもプラスに働く事もあるよ。君はカラオケが好きなのかな? 「はい」(安池)

岡村(2回生) 僕は大学へ入ってから合唱を始めて、1年余りやってきて、最初はただ楽しんでやっていたのですが、技術面で見えない壁にぶちあたったりします。そうゆう時はどうしたらよいのですか?

福永先生 何が壁なの?

岡村 やっぱり...声は良くても、(部員一笑)曲をなかなかうまく表現できない事があります。

福永先生 基本的に君の歌う気持ちが聴いている人に届いているが常に考える事だね。そう心がけると自然にうまくなるよ! 要するに自分の気持ちが伝わらないのは下手な歌い方だからね。

佐藤(2回生) 唐突な質問ですが先生が、同志社グリークラブで一番好きなところはどこですか?

福永先生 1人1人が、自分が自慢できるものを何か持っている事だよ。明るくて、俺はこれができるぞという嬉しい顔をして歩いてるようなところだ。トピック4回の八幡さんを指名されて一役がね、この前のパーティーで Ride the Chariot の Solo をしたけど、ああゆうのが同志社グリーだと思うよ。ああゆうのが多いとアンサンブルは悪くなるけど(部員一笑)それでもその方がいいと思うのは、個人個人が全部自分を出して、それでもなお、コーラスがそろう事が最高のコーラスだと思うからね。

古谷(2回生) 僕は昔エレクトーンをやっていた、大学に入って合唱を今している、音とかを正確にとれば聴き手には同じように伝わるのではと考えた事があります。先生は、いつも気持ちを伝えるようにとおっしゃいますが、その所をお願いします。

福永先生 エレクトーンとかは、色々な音は出るけど音をゆがめたりして、いびつなものを出す事はできないから、表情的に単一だね。でも人間の声というものには、色々な可能性がある。だから、人間の声でしかできないものを目標としなければいけない。気持ちの変化によって歌なんてものは大きく変わるものだからね。



陽ちゃんといっしょ

—このような調子で二十数名が質問をしていったわけだが、福永先生は、どんな質問にも一生懸命に答えて下さり、あとで下級生に、福永先生とお話しをしてどうだったかを聞くと誰もが先生とこんなにもいい意味でうち溶けて、お話しする事ができて嬉しかったと口をそろえて言っていた。—

福永先生へひと言

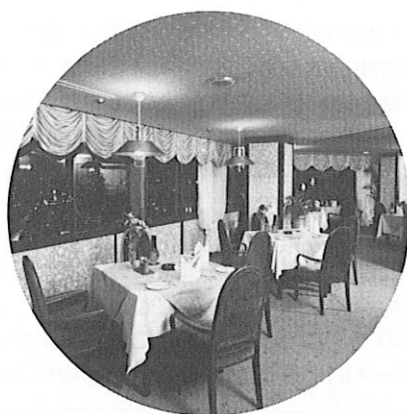
福永先生は、同志社グリークラブにとっては、野原に立つ大木のような方です。時は流れ年々その大木に宿る小鳥の顔ぶれは変われども、その小鳥である同志社グリークラブのメンバーを何千人と育てて来ていただきまして、本当にいくら感謝しても、しきれない程でございます。

福永先生、これからも同志社グリークラブを宜しくお願い致します

—部員一同—

を(事)食(お)で(心)こ(め)ら(し)ま(す)

フランス料理を
こころゆくまで
お楽しみ下さい。



煌めく 夜景を
ながめながら
ヨーロッパで修業を重ねた
シェフ井上孝雄の

フランス料理
ラメール
—南館9F—
京都ホテル
京都市中京区河原町御池 ☎(075)211-5111

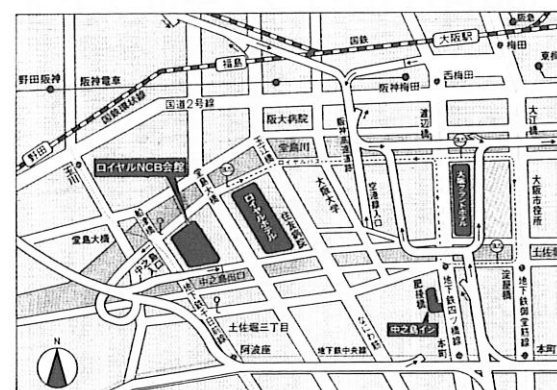
●11:30am~2:00pm
●5:00pm~10:00pm



慶びの日を格調高く演出

ロイヤルNCB会館

ロイヤルNCB会館は 中之島の最西端に 位置する中之島センタービル
にあり、結婚ご披露宴、各種記念パーティー、展示会、ファッショニング
ショー、会議、研修会など、あらゆる用途に応じてご利用いただけます。



大阪府北区中之島6丁目2番27号 中之島センタービル(船津橋南詰)
交通 ●国鉄環状線 福島駅徒歩10分

挙式は神前式その他、キリスト教
式、仏式、人前式。披露宴は三百
名様まで可能です。

ロイヤルホテルで培われた調理
技術の結晶、婚礼メニューも評判。

☎ 06(443)2251



(株)大阪フォト サービス カンパニー

〒550 大阪市西区江之子島1丁目5-17
TEL 06(443)7608(代表)

目標を決めて、さっそく積み立てを始めましょう。

きっぷ1枚から海外旅行まで

旅行券の使い途はとってもワイド

たびたび

この前払いプランは

- ①ラクラク毎月積立て。
そのうえサービス額もつきます。
- ②お支払いは便利な自動引落し。
- ③積立期間は6ヵ月から60ヵ月のうち
自由設定で。
- ④お求めいただく旅行券の使い道は
ワイドです。
- ⑤個人旅行から団体旅行まで
すべてのプランに
- ⑥一時払いコースもあります。

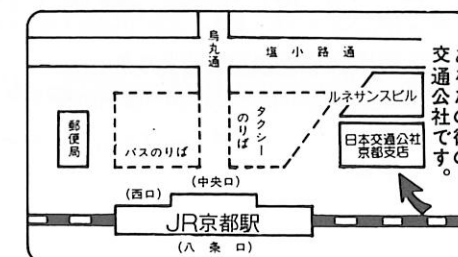
日本交通公社 京都支店

運輸大臣登録一般旅行業第64号

〒600 京都市下京区東塩小路町

たびたびのお問合せ

☎075-341-2141へ



祝 第83回 同志社グリークラブ定期演奏会

翔べ! 若武者グリーンメン!!

今日の日が君たちのすばらしい明日へのワンステップです。

演奏会パンフレット・テレフォンカードの御用命は
 高速情報処理印刷 有限会社 **太陽社**
 〒543 大阪市天王寺区大道3丁目1番30号
 TEL (06) 779-7618 (代)
 FAX (06) 779-2163



武庫川女子大学コーラス部 第20回定期演奏会

- | | |
|---|---------|
| I. 蝶 | 指揮/住吉 武 |
| II. マザーグースの歌 | 堀本 直子 |
| III. 鎌倉の四季 | 佐々木美音子 |
| IV. ヲケイ無伴奏女声合唱曲
<small>カゲイ 聖霊降臨の村祭り、田園詩他</small> | 平田 勝 |

1988年1月23日(土)P.M.6:00開演
 (連絡先) 藤原礼子(0798) 49-0899(呼)

尼崎市総合文化センター
 アルカイクホール

'88 第56回関西学院グリークラブリサイタル

- 1月30日(土) 神戸: 神戸文化ホール大ホール P.M.5:00開場 P.M.5:30開演
 ■1月31日(日) 大阪: フェスティバルホール P.M.3:30開場 P.M.4:00開演
- MASS 作曲 Virgil Thomson 指揮 林雄一郎 パーカッション 渡辺孝志
 - 男声合唱組曲「雪明りの路」 作詩 伊藤 整 作曲 多田武彦 指揮 近藤丈詞
 - Schicksalslied op54 (運命の歌) 作曲 J. Brahms 編曲 北村協一 指揮 畑中良輔 ピアノ 浅井康子
 - 男声合唱によるミュージカル「オクラホマ」 編曲 源田俊一郎 指揮・演出 北村協一 ピアノ 浅井康子
 - 男声合唱組曲「青いメッセージ」 作詩 草野心平 作曲 高嶋みどり 指揮 北村協一 ピアノ 浅井康子

(連絡先・電話予約) 関西学院グリークラブホール ☎0798-52-6471
 ☎06-363-9999 (11月15日電話予約開始)



株式会社 サム・コーポレーション

神戸オフィス: 〒651 神戸市中央区上筒井通5丁目2-10
 ☎(078)241-1899(代) FAX 241-8740
 東京オフィス: 〒100 東京都千代田区永田町2-17-5
 ローレル永田町201号
 ☎(03)502-4430(代) FAX 595-3338

京都府知事登録第6号



日本教育旅行

京都市下京区烏丸七条上ル一筋目東入ル100m

お申込み・お問い合わせは

☎075(351)0405

合宿・ゼミ旅行・宿泊コンパ・スキー etc.

お気軽に御相談下さい



大阪地区 06(708)4646



若さの秘密は健康です。ビトンハイ



血管の老化はすすんでいます。

人は血管から老化します。とくに、血管に悪影響を及ぼすのが、過酸化脂質。ちようどパイプにサビがつくように血管の壁をいためます。ビタミンEやC、B2は過酸化脂質をおさえ、血管を丈夫にします。

天然型ビタミンE製剤 ビタミンC・B2配合

ビトンハイ
 <わくは薬局・薬店でご相談ください>

<効能>●末梢血行障害による冷え症・手足のしびれ・しもやけの緩和●更年期における肩こり・頭痛・頭重・不眠の緩和●月経不順



決定! 昭和63年6月19日(日)
 大阪フェスティバルホールにおいて
第37回東西四大学合唱演奏会
を Big に開催!(昼夜2回公演)

早稲田大学グリークラブ 慶応義塾ワグネルソサイエティー 男声合唱団
 同志社グリークラブ 関西学院グリークラブ

お問い合わせ 同志社グリークラブBox 075-451-9871—関西学院グリークラブホール 0798-52-6471

——今年度演奏スケジュール——

- 4月6日 入学式参列(デイヴィス記念館)
 30日 京都学生マンドリン連盟合同演奏会賛助出演(京都会館第一ホール)
 5月9日 『土曜コンサート』出演(円山野外音楽堂)
 31日 京都合唱祭(京都会館第一ホール)
 6月2日 『フレッシュ9時半キタロー』出演(朝日放送)
 4日 関西テレビ『すばらしきキャンパス』録画(御所)
 7日 結婚式出演(ホテル日航大阪)
 14日 同志社・関西学院グリークラブ交歓演奏会(フェスティバルホール)
 20日 東西四大学合唱演奏会(サントリーホール)
 7月1日 全日空ホテルパーティー出演
 5日 同志社・立教大学グリークラブ交歓演奏会(八幡市文化センター大ホール)
 26日 演奏旅行 26日:福山市民会館大ホール
 30日:出雲市(武志山荘)
 8月1日:福井フェニックスプラザ小ホール
 8月30日 ミスユニバース近畿地区大会&ABCトワイライトコンサート出演
 9月26日 京都グランドホテルパーティー出演(天王寺博覧会場)
 27日 福永先生指導25周年記念パーティー(宝ヶ池プリンスホテル)
 10月8日 宝ヶ池国際会議場パーティー出演
 10日 結婚式出演(姫路キャッスルホテル)
 18日 同志社創立111周年記念募金式典(ホテルサンフラワー京都)
 24日 故 住谷悦治元総長追悼礼拝参列(栄光館)
 25日 大阪女子学園短期大学学園祭出演
 27日 宇治市立広野中学校文化祭出演
 11月2日 めぐみ幼稚園創立35周年記念式典出演(門真市)
 3日 関西六大学合唱演奏会(フェスティバルホール)
 7日 『心のふれあいコンサート』出演(向日市民会館)
 26日 グリークラブEVE祭コンサート(同志社大学会館ホール)
 12月5日 奈良市立二名中学校音楽鑑賞会出演(奈良市民文化会館大ホール)
 6日 結婚式出演(京都ホテル)
 19日 第83回 同志社グリークラブ定期演奏会(ザ・シンフォニーホール)
 24日 全同志社メサイア演奏会(京都会館第一ホール)
 26日 西北ロータリークラブ クリスマス家族会出演(京都センチュリーホテル)
 1月21日 神戸学院女子短期大学音楽科定期演奏会賛助出演(神戸文化ホール)
 23日 結婚式出演(新島会館)
 2月13日 フェアウェルコンサート(同志社大学会館ホール)
 3月20日・21日 卒業式参列(栄光館)

同志社グリークラブ ♪
 第83回卒業生のための送別演奏会 ♪

1988年2月13日(土) 5:30PM 開演

同志社大学会館ホール(入場無料)

メンバー紹介

名誉顧問	片桐 哲	幹事長	栃木 義博	山本 徹也	学生指揮者	武内 和朋
	遠藤 彰	内政	雨宮 信	演奏旅行	学生副指揮者	大島 直哉
顧問	洪谷 昭彦	外政	中西 智久	サブ	Top-Part Leader	八幡 諭
技術顧問	福永陽一郎		西川 善大	資料担当	サブ	松本 千尋
指揮者	富岡 健		安池 倫成	サブ	Ssc-Part Leader	奥村 圭司
ヴォイストレーナー	大久保昭男	サブ	伊藤 彰敏	OB担当委員	サブ	田中 祐之
			小川 和博	サブ	Bari-Part Leader	吉岡 康彦
		ステージ	古谷 勝一	文連常任委員	サブ	金森 勝徳
		サブ	瀬戸 正己	メサイア実行委員	サブ	森藤 泰生
		会計	花牟礼武司		サブ	内田 勲
			土居 敬幸			
		サブ	高瀬 毅			
			新井 正			



Top Tenor

八幡 諭(商4) 泉立戸屋	石井 元博(商4) 同志社香里	中西 健(商4) 伊 勢	干場 一博(工4) 京大付属
桃井 茂樹(法4) 安 積	松本 千尋(文3) 川 越	野村 英也(商3) 広島井口	木寅 潤一(法3) 同志社香里
中西 智久(法3) 桂	大島 直哉(文3) 緑 岡	廣島 映一(商2) 甲 府 東	花牟礼武司(法2) 箕 面
伊藤 彰敏(法2) 名大附属	津田 潤(文2) 西 宮 北	西田 士朗(法2) 同志社香里	新井 光明(神1) 平塚江南
有村優一郎(法1) 関西大倉	池田 祐一(文1) 一 宮	岩田 正之(商1) 堀 川	川口 晃司(工1) 同志 社
黒沼 貴博(文1) 大 宮 北	松浦 一雄(法1) 北 千 里	小貫 岩夫(神1) 小樽桜陽	若野多可志(神1) 富 山 東

Second Tenor

奥村 圭司(商4) 名古屋市立北	藤本 俊孝(経4) 今 治 西	万代 優(経4) 東 山	奥村 康彦(商4) 菊 里
吉田 照彦(工4) 比 叡 山	林 桂三(工4) 瑞 陵	大塚 正高(商4) 長 良	土居 敬幸(経3) 大 手 前
瀬戸 正己(工3) 長 田	栃木 義博(経3) 泉 陽	田中 祐之(文3) 乙 訓	安池 倫成(商3) 静 岡
堤 大輔(法2) 宇治山田	小川 和博(商2) 高 松 商	田中 敦(商2) 舟 入	矢橋 謙二(商2) 大 垣 西
伊東 恵司(経2) 嵯 峨 野	赤羽 俊一(商1) 松本第一	鹿野 博志(文1) 春 日 井	堀見 尚城(法1) 北 大 和
内田 敏文(経1) 北 陸			

Baritone

吉岡 康彦(法4) 若 狭	辻本林一郎(商4) 津 西	梅田 隆司(経4) 北 野	佐々木義治(商4) 彦 根 東
上村 直也(文4) 福 岡	古川 偉久(経3) 東 海	西川 善大(経3) 関西大倉	高瀬 毅(工3) 金沢二水
金森 勝徳(商3) 春 日 井	野村 忠司(工3) 向 陽	辰己 昇(商3) 清 風	新井 正(法2) 桃山学院
桑野 博之(法2) 田 川	古谷 勝一(商2) 磐 城	栗田 陽一(文2) 西 条	佐土原陽二(文2) 別府鶴見丘
日笠 喜元(工1) 松 江 北	前川 明広(文1) 生 野	仲 信也(経1) 大 湊	西川 智之(文1) 清風南海
大電 歩(文1) 嘉 穂	島田 直明(経1) 高 槻	竹内 正(法1) 同志社香里	田村 昌宏(商1) 新居浜西
田村 俊幸(商1) 富 岡 西			

Bass

森藤 泰生(商4) 丸 亀	井上 裕文(商4) 龍 野	真鍋富太郎(経4) 観音寺第一	沖原 吉広(経4) 茨 木
佐伯 盛一(文4) 同志社香里	青木 陽介(商4) 箕 面	武内 和朋(文4) 日 田	内田 勲(商3) 広島井口
雨宮 信(文3) 都立三鷹	市丸 正之(法3) 高 槻 北	佐々木昭憲(法2) 池 田	田端 信哉(法2) 芥 川
山本 徹也(工2) 舟 入	雲 博之(商2) 春 日 丘	岡村 健二(文2) 熊 谷	佐藤 健司(商2) 札幌藻岩
田原 邦昭(商2) 大分上野丘	平田 英晃(法2) 箕 面	橋爪 慎二(文1) 伊 勢	平野 勝久(商1) 東 浦
松田 仁(商1) 生 野	宮崎雄一郎(経1) 市 川	阪部 康昭(法1) 洛 南	世古 裕一(法1) 金沢二水
竹内 敏(文1) 熊 谷 西	滝口 浩一(経1) 葦 山	田村 篤志(神1) 洛 南	浦木 健(法1) 西 宮 北

編集後記

今年は、同関、東西四連、同立、関西六連と、演奏会の多い年であり、我々マネージャーにとって多忙な年でした。しかしここに、今年の集大成という、定期演奏会を無事迎えることができ、一同安心しております。今振り返ってみると、日常生活の大半を、グリーンメンとして過したことも、良き思い出として、心に鮮明に残っています。また今宵の演奏会によって、新たなページが刻まれることでしょう。

最後になりましたが、このパンフレット制作にあたり、快く原稿依頼に応じて下さった諸先生方、広告をくださった方々、太陽社の皆様、その他関係者各位に、心より感謝をいたします。本当にありがとうございました。今後とも同志社グリーンクラブを、よろしくお願い申し上げます。



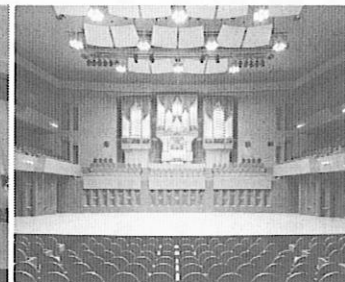
1987年12月
同志社グリーンクラブ
マネージャー一同



The Symphony Hall

なにかが変る。予感が聴こえる。

- **オルガン**
スイス・クーン社製。54ストップ。オルガンを扱う楽曲が理想の姿で演奏できます。
- **アリーナ・シアター**
残響2秒、ピロードの響きがすべての席を覆いつくし、ステージと客席は一つに溶けあいます。
- **グランド・ホワイエ**
中央に吹き抜けを持つ二層の優美な空間。音楽へと続くプロムナードです。展示会や小さな集会もできます。



ザ・シンフォニーホール
朝日放送

〒531 大阪市大淀区大淀南2丁目

ご利用のお問合せ 06-453-1010

入場券のお問合せ 06-453-6000

出光カードは、 Yourのカード。



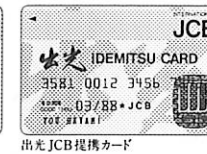
いつもの街から、世界まで。



出光VISA提携カード



出光MC提携カード



出光JCB提携カード



出光DC提携カード

出光のサービス・ステーションはもちろん、
ブティックやレストラン、ホテルなど使い道360度。
国内から海外まで、サインひとつでOK。
出光カードは、あなたの暮らしを広げる、
フコロの深い国際カードです。



特長●VISA、MC、JCB、DCの4つの提携ブランドから自由に選べ、ほとんどの金融機関で決済できます。●出光の給油所、ガスショップから提携カード会社加盟店(国内・海外)までの幅広いご利用。●キャッシングは銀行系、流通系、信販系のはとんどのCD機で。●ローン、保険、JAFロードサービス、レンタル、リースなどに。
特典●ご利用額に応じたボーナスプレゼント。●会員情報誌の提供など。●お申込み・お問合せは、アポロマークの出光カード取扱店へどうぞ。※出光カードは、出光クレジット株式会社がお届けいたします。

ただいま〈会員募集中〉

